

第1回 第6次松山市総合計画（後期基本計画）推進懇話会会議概要

(1) 開催日時・場所

開催日時：平成29年7月7日（金）13:30～15:40

開催場所：松山市役所 別館6階 第3委員会室

(2) 出席者

「出席者名簿」のとおり（6ページに掲載）

(3) 次第

1. 開会
2. 西泉副市長挨拶
3. 懇話会メンバー及びその役割について
4. 後期基本計画の策定方針について
5. 前期基本計画の総括について
6. 今後のスケジュールについて
7. 閉会

(4) 会議概要

- 1～4、6、7 略
5. 懇話会メンバーからのご意見等

公募市民 稲葉さん

- ・施策321「多様な資源を活用した都市魅力の創造」の中で、ことばのちからに関連して俳句甲子園や俳句ポストなどの取組があると思うが、島しょ部の活性化において、ことばのちからに関する取組は行っているのか。行っていない場合、今後実施していく予定はあるのか。

(事務局)

- ・島しょ部は愛ランド里島構想に基づいて活性化を進めているため、ことばのちからによる展開は現在行っていない。今後については、ご意見を参考にしたい。

- ・施策521「良好な都市空間の形成」について、先日、京都市の都市景観の話をうかがった。京都市でも看板の設置規制や建築物の高さ、形、色などについて規制を大きくかけているそうだが、そのような制限は、関連する事業者や不動産等への影響があり、あまり喜ばれる規制ではないとのことであった。松山市では事業者に対してどのような説明をしているのか。

(事務局)

- ・所管の都市整備部においても、そのあたりの合意形成が非常に重要になっている。景観形成区域については平成27年3月にその区域を拡大し、今年10月にはロープウェー街を重点地区に追加する予定である。まさに、指摘いただいた点は現場も苦慮していると思うが、やはり統一的な街並みや景観は、街の魅力アップのためには重要なことだと考えているため、引き続き、合意形成に努めていく必要がある。

まつやま子ども育成会議 太田委員長

- ・施策412「青少年の健全育成」の中で、指標②市立小中学校におけるいじめの解消率について、100%を目指すのは大事なことであり、実績も非常に高いわけであるが、文部科学省の方針が改定された（「いじめの防止等に関する基本的な方針」平成29年3月14日改訂版）ように、「いじめが解消している」状態は非常に慎重に判断しなければならないため、後期も100%を目標にするのが当然かもしれないが、そのあたりについて議論していく必要がある。

松山アーバンデザインセンター副センター長 兼 愛媛大学防災情報研究センター 小野准教授

- ・指標については全市的な総量をとっていると思うが、人口減少の中で目標を考える際の一つの視点として、立地がすごく大切だと思う。都市計画分野ではコンパクトシティが推進されており、必ずしも街中に集中する必要はないかと思うが、ただ、例として子育て支援施設が郊外にあった場合と街中にあった場合、どちらが効果的か、立地、空間的な評価もあるため、今後検討していきたい。
- ・平成 26 年 2 月に公・民・学の連携によるまちづくり拠点として、松山アーバンデザインセンターが創設され 4 年目を迎えるところであり、これまでもグッドデザイン賞やまちなか広場賞など外部評価を得ていることから、成果を出すことができていると感じている。松山アーバンデザインセンターとは何か問われることが多いが、都市空間のデザインやまちづくりを専門としている機関であり、アエル松山の開発や大街道アーケードのデザイン、銀天街の自治区で準備が進んでいる再開発、そして JR 松山駅周辺の整備など、ハード整備に専門家として様々な援助をさせてもらっている。

施策 522「計画的な土地利用の推進」の中で、「立地適正化計画を策定し」とあるが、道路や上下水道といったインフラ整備の維持管理にかなりコストがかかることから、優先順位をもって機能を集約しなければならないという考え方にに基づき、まちづくりにおいて今後は街中をコンパクトに集約していく必要があると言われている。

その一方で、国の政策でも重要になっている子育て支援や高齢者福祉、障がい者福祉などで地域包括ケアシステムといった、住み慣れた地域でずっと暮らしていけるように、平等なサービス供給をしようという考え方がある。今後、そうしたことについても後期計画を考える中で議論が必要である。

特定非営利活動法人ふれあいエコクラブ 加藤理事

- ・施策 121「高齢者福祉の充実」の中の指標④ふれあいきいきサロンの利用人数について、平成 29 年度から利用回数が月 1 回から 2 回に増え、新規利用者への広報もないことから、同じ人が 2 回利用した場合も人数に含まれると考えられ、実績値が適切なものとなるか疑問がある。そこをどのように検討していくかは計画される福祉担当の方の課題であると思うが、後ほど出てくるまつやま Re・再来館についても、利用人数の数値は様々な捉え方があるのではないかと。
- ・まつやま Re・再来館は、平成 14 年に当時の中村市長に創設の意見を受け入れていただいて、今年の秋に 15 周年を迎える。指標にも来館者数が挙げられているが、年間に 241 の講座を開講しているほか、工房が賑わっており、その参加者のみで延べ 2,000 人くらいが来館している。来館者数もずっと右肩上がりというわけにもいかないのですが、来年は達成率が下がるかもしれないが、少ない費用で我々ボランティアも頑張っているため、今後もよろしくお願ひしたい。

松山大学法学部 倉澤教授

- ・施策 111「子育て環境の充実と整備」の中で、指標①保育所入所待機児童数に「新定義の実績値による達成状況の評価は困難」と記載しているが、長いスパンで計画を立てると、途中で国の政策変更等により指標を見直さなければならない事例もあると思う。定義が変わったことで当初の目論見通りにいかないとはいえ、ニーズがある中で目標がゼロのまま推移してしまったことは目標の立て方としてどうなのかなと思う。
- ・施策 411「知・徳・体の調和のとれた教育の推進」の中で、教育に関する相談件数が増えているという記載について、実態の把握はしていると思うが、それに対する指標がないことが気になった。

また、近年 LGBT に関連した問題が大きく取り上げられているため、今後の検討事項になってくると思う。

- 行政手続法が2年前に改正され、処分等の求めや行政指導の中止等の求めなどの仕組みが新しく設けられている。恐らくあまり知られていないので、要望する側も受ける側も苦情のような対応を取ってしまうことが多いため、そういった仕組みが法律で設けられたということは少なくとも周知が必要であると感じている。それが定着してくれば、今後の話であるが、その求めも政策提言の数に含め指標化することができるのではないかと思う。

松山市消防団女性分団 高橋分団長

- 様々な場面でマスコミ関係を通じていろいろとやってもらっているが、まだまだ消防団に対しての認知がすごく低いと感じている。女性分団は災害現場の最前線には行かないが、大きな災害が発生し、避難所が設置された場合を想定した訓練等を行っている。
各地域に女性消防団員がいることを全然知らない人もいるため、出初式や県・市の総合防災訓練など大きな行事にも参加している。
また、「頼れる女性」として女性消防団員は活動している。男性は現場にも行くが、女性分団は各団員が持っている様々なノウハウを駆使して、様々な場所で活動することを考えている。今回このような機会を得たことで、皆さんに消防団というものを知っていただき、松山市民全員に少しずつでいいので、命を守るような活動やいかに命が大切かという取組に関わっている者がいることを知ってもらいたい。
- 「笑顔のまつやま まちかど講座」をよく利用しており、施策612「市民参画による政策形成」の中で、世代や属性によって利用回数に差があると記載されているが、講座内容にあまり変化がないと感じている。申込件数の多い講座についてももう少し掘り下げた内容に変えれば、申し込みにも変化が出てくるのではないかと思う。

松山市文化協会事務局長 兼 文化・スポーツ振興財団 中西常務理事

- 施策422「地域スポーツの活性化」の中の指標①スポーツ施設の利用者数、施策422「文化芸術の継承及び創造」の中の指標①市文化施設の利用者数については、現場と行政との認識の乖離や予算状況を踏まえ、新たな指標を検討していただきたい。

松山商工会議所総合企画部 中矢部長

- 指標の設定において、これまでの基本目標もそうだが、推定数値を設定しているところが多い。企業経営ではないため難しい部分はあるだろうが、本来、マネジメントの手法として目標を立て、KPIの値を設定していく中で、KPIは具体的な数値でなければならないという原則がある。しかし、総合計画の指標は様々な要因から推定した数値があり、同じ算定方法により定点で管理していけば比較対象にはなるため、一定の進捗管理はできるのだろうが、その点が少し気になった。
- 施策623「行政情報の適正運用」の指標②業務系システムに係る運用経費について、運用経費が減少し、横ばいになっている現状が適正であるのか疑問がある。指標にするのであれば、工数の減少など業務の効率化に密接した指標であるべき。セキュリティやIoTの部分も含めてシステムを刷新する機会が増えれば、市民サービスの向上にもつながるが、コストを抑えることが目標で、業務やサービスの質が低下しかねない指標になっているのではないかと感じている。

愛媛大学社会連携推進機構 前田教授

- 指標の考え方について、例えば自主防災組織による防災訓練への参加者が少ないという評価だったが、そもそも8万人から10万人というような目標設定に当時どのような考え方があったのかが分かれば、この数値はどうか判断しやすいと思った。数字のみを見せられる

のではなく、そのあたりの背景等も説明があればいいと思う。

これから人口が減っていく時代になるため、それを考慮した目標設定を考えていかなければならない。右肩上がりの分野もあれば、そうでない分野もあるため、どういった目標を設定するか検証していく上では、今までの設定の仕方がどうだったのか、少し議論されていくとよいと思った。

- ・施策 331「良好な交通環境の整備」の中で、花園町通りの道路空間改変、あるいは二番町線の無電柱化工事とあるが、道路空間の使い方を考えたときに評価基準が指標①の無電柱化整備済延長のみでいいのか考えなければならないと思う。
一部を自転車空間にしたのか、歩行者の通行量はどうだったのか、街中での滞留時間がどれくらい伸びたのかなど、もう少し全体を見た指標構成がないと、これだけで評価することに少し違和感がある。もう少し実態、目的に則した視点があってもよいと思う。
- ・施策 442「文化芸術の継承及び創造」の中で、指標①市文化施設の利用者数が挙げられているが、行っている事業を見ると、民俗芸能保存団体の運営補助、民俗芸能の後継者育成を支援したと記載されているため、事業に対してもう少し細かく評価・検証できる指標があればいいと思う。去年、文化庁の委員をしていた際は、関わる団体数の増加などを指標にしていた部分があったので、どこまできめ細かくするかという判断も必要だが、そのあたりを議論できればよいと思う。
- ・施策 611「市民主体のまちづくり」の中で、まちづくり協議会の設置数が指標になっているが、設置することが目的ではなく、それをどう運営させるかが一番大事であると思う。当面の目標は設置団体数でも構わないが、もう 10 年ほど経過し、活動も進んでいると思うので、そこでの活動の数や事業の数を指標にし、どれだけの事業が地域で行われているかが基準に組み込まれるとよいと思う。
- ・施策 621「地方分権に対応する体制の整備」の中で、松山創生人口 100 年ビジョン先駆け戦略があるが、現在松山市では市独自の組織と、民間側が主体となった組織があり、それぞれで様々な事業を行っている。そこで行われていることや評価などをうまく指標化し、見える化していかなければ、事業の成果が見えにくい。それをどうやって見えるようにするのは今後の話だと思うが、松山市では民間主体の組織を行政が支援しながらマネジメント運営していく形が見えてきているので、それに見合う指標について議論ができればと思う。

松山東雲女子大学・松山東雲短期大学 村山非常勤講師

- ・施策 311「雇用・就労環境の整備」の中で、平成 27 年度から、女性求職者が再就職に必要な知識、技術等を習得できるような取組を始めたと記載されており、国も女性活躍推進を表明しているが、現在就労している人に対する仕事と家庭の両立支援に重点が置かれているように思う。女性が仕事を辞めずに続けることがまず大事なことだと思うが、現実には第 1 子出産の際に 6 割程度の女性が辞めているため、女性の再就職支援について、女性活躍推進、雇用状況という点においても、仕事と家庭の両立支援と両輪となって推進されなければならないと、ここ数年痛感している。

平成 27 年度から女性の再就職に力を入れているというのは、社会情勢の変化を踏まえての取組だと思うが、若年層でも雇用者側と働きたい側のミスマッチがあり、退職から 3 年が経過すると再就職が難しいと言われている。実際に再就職を希望する女性は、もっと長い期間が経過してから再就職に臨む人が多いと考えられるため、ミスマッチのない形で女性の再就職を支援できるよう、後期も取り組んでもらいたい。

- ・施策 611「市民主体のまちづくり」の中の、指標④松山市男女共同参画推進センター各種啓発事業への参加者数の実績について、センターだけでなく多様なところで男女共同参画が行われているという理解をしてもよいのではないかと考える。

基本目標 3【産業・交流】の雇用の部分でも、女性の再就職についての講座やセミナーを開催しており、公民館でも、国が女性の視点を取り入れたいと言っている防災の講座が行われている。男女共同参画というのは、特定の分野ではなく、あらゆる分野にその視点を注ぐ

という視点の問題であると理解している。

また、松山市男女共同参画推進センターは、県の男女共同参画センターと近いので、市民・県民にとって学ぶ機会がたくさんあるということであり、市のセンターへの参加者が減少したから市民の意識啓発がなされていないと一面的には捉えられない。公民館などを含め、様々なところで進められているという理解も成り立つのではない。

センターの講座参加者数だけの指標で、かつ右肩上がりに目標値を設定するというのは、約 20 年前の開業当時とは違うので、頭打ちになってくるのではないかと思う。指標及び目標値の見直しが必要だと思う。

- ・「笑顔のまつやま まちかど講座」に子ども版があり、選挙や税について学ぼうというテーマがあったが、やはり男女共同参画を推進するためには、子どもの頃からそういった政治的なこと、経済的なことを男女共に学ぶという機会が大切であるため、多彩な展開が一番大事だと思う。まちかど講座の子ども版は、大変素晴らしい取組である。

公募市民 山本さん

- ・施策 411 「知・徳・体の調和のとれた教育の推進」の中で、ふるさと松山学について記載されており、おそらく松山に住んでいる人に愛着を持ってもらう取組だと思うが、大学進学を機に松山に移住する人も多い。そういった人に松山への愛着を持ってもらい、卒業後に松山へ留まって力を尽くしてもらい、もしくは松山市外に出た場合に松山の良さを広げてもらうなどの効果も期待できると思うが、松山市外から移住してきた大学生に対するアプローチ等を行っているのか。

(事務局)

- ・市内の新入大学生等を対象に、松山城などの文化施設を 1 年間無料で招待する取組を行っているが、県外から来た学生にもっと松山をアピールできるように、今後もそういった視点をもって取り組んでいきたい。

松山市認定農業者協議会 横林会長

- ・施策 612 「市民参画による政策形成」の中で、市長へのわがまちメールについて、提言内容が特定の分野に偏る傾向にあると記載されているが、どのような分野に偏っているのか。

(事務局)

- ・福祉関係や都市整備関係など、生活に密着した分野のメールが多く寄せられている。

以上

第1回 第6次松山市総合計画(後期基本計画)推進懇話会 出席者名簿

開催日時 : 平成29年7月7日(金) 13:30~15:40

開催場所 : 松山市役所 別館6階 第3委員会室

所属・役職	氏名
公募	稲葉 愛笑
まつやま子ども育成会議 委員長	太田 佳光
松山アーバンデザインセンター 副センター長 兼 愛媛大学防災情報研究センター 准教授	小野 悠
特定非営利活動法人ふれあいエコクラブ 理事	加藤 公子
松山大学法学部 教授	倉澤 生雄
松山市消防団女性分団 分団長	高橋 真由美
松山市文化協会 事務局長 兼 文化・スポーツ振興財団 常務理事	中西 真也
松山商工会議所総合企画部 部長	中矢 斉
愛媛大学社会連携推進機構 教授	前田 眞
松山東雲女子大学・松山東雲短期大学 非常勤講師	村山 洋子
公募	山本 こよみ
松山市認定農業者協議会 会長	横林 徳幸

※50音順